

未来につなぐ辰野町の森ビジョン

～持続性と多様性のある森林を 50 年後の未来へ～



令和 6 年（2024年）3月



辰野町

未来につなぐ辰野町の森ビジョン策定委員会



令和6年（2024年）は辰年。全国の市町村名で唯一「辰」という漢字が含まれている辰野町。

記念すべきこの年に『未来につなぐ辰野町の森ビジョン』を発行する運びとなりました。

辰年の主役・龍（辰）は、十二支のなかで唯一実在しない架空の生き物で、幽明界（ゆうめいかい：あの世とこの世）を行き来できる神通力をもった霊獣とされています。

また、水をつかさどる龍は、雨を降らせ、雷や竜巻を起こすことができる能力をもち、龍神として信仰・畏怖されてきました。このことは水と森林に深い関わりがあり、水（川）をつかさどる龍は、森林と共にあると言えます。



「森ビジョン」を
ナビゲートします！



辰野町イメージキャラクター
「ぴっかりちゃん」
(商標登録第5073743号)

未来につなぐ辰野町の森ビジョンの策定にあたって

辰 野 町 長 武居 保男

令和4年9月に「森ビジョン策定委員会」を発足し、検討を進めてまいりました『未来につなぐ辰野町の森ビジョン』を、ここに広く町民の皆様に提案させていただきます。

このビジョンは、これまで辿ってきた地域の林業の変遷について分析して現状を捉えたことをもとに、50年後の辰野町の森林のあるべき姿を設定し、目標を定め、推進すべき内容を記載しています。

辰野町は、総面積の約87%を森林が占めており、アカマツ、カラマツを主体とした自然豊かな町であります。森林は、林産物の生産、山地災害の防止、水源の涵養、生物多様性の保全、さらに地球温暖化を防止するCO₂の吸収・貯蔵の機能など、私たちの暮らしに様々な恩恵をもたらす素晴らしい財産です。

しかしながら、令和3年度には当町でも大規模な豪雨災害が発生しており、災害防止等の公益的機能の発揮が求められる森林については、適切な整備等の推進により、災害に強い森林づくりを進めていく必要があることが課題となりました。

国においても「森林経営管理法（平成30年法律第35号）」や、「森林環境税及び森林環境譲与税に関する法律（平成31年法律第3号）」が施行され、森林を取り巻く環境は大きく変革の時を迎えました。また、近年は森林ビジネスにおいて、木材生産だけではなく、森林サービス業として森林空間を活用したビジネスの展開など、新たな価値が見いだされつつあります。

当町においても、この潮流を逃すことなく、町内の森林整備促進により、多面的な機能を発揮させることに努めるとともに、持続可能な開発目標（SDGs）に貢献していきます。

天然生の広葉樹林が広く存在している溪谷等の自然景観機能や、キャンプ施設等を活用した林業体験、自然観察、都市住民との交流も期待するところであります。

森林の整備促進は、森林所有者をはじめとする地域の皆様のご協力無くして遂行できません。町が進める政策へのご理解ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をくださいました町民の皆様や、議論と検討を重ねていただいた「未来につなぐ辰野町の森ビジョン策定委員会」の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。



令和6年（2024年）3月

未来につなぐ想いを

策定委員会 委員長 植木 達人

(信州大学大学院 学術研究院農学系 教授)

「文明の前には森林があり、文明の跡には砂漠が残る」これは19世紀のフランスの政治家であり文学者でもあったシャトーブリアン(François-René de Chateaubriand、1768年-1848年)が残した言葉です。また同じような意味で「文明は森に斧(おの)をいれたときに始まり、森がなくなったときに消滅する」ともいわれています。文明崩壊のプロセスは「森林を伐採しその土地や資源を利用して都市開発や農耕・牧畜が進展していくことにより文明は栄えていくが、遂には過度な森林の伐採により洪水や渇水が頻発して文明が衰退・崩壊していく」というものです。この一文は古代文明の行く末を言表したのですが、現在にも通じるものであり、過度な森林伐採は土砂災害や洪水等を発生させる要因となり、人の手で植えた森林(人工林)の放置は、生態系や生物多様性を劣化させます。そうした点に鑑み、森林を維持することが重要であることを「未来につなぐ辰野町の森ビジョン」では記載しています。

森林を「守り、育て、利用する」持続的プロセスの主役は地元住民でなければなりません。そのため、「森ビジョン」では「共同アプローチ」、すなわち「地域住民が森林の保全や管理等に自らかかわり、森林資源の利活用も協働的に進め、そこから生まれるさまざまな便益は地域(住民)に還元される」ことを願い、「自然や生物多様性の保全と人々の暮らしに寄与する森林・林業活動を地域社会が総出で実践する」という意味の言葉を採用しました。「共同アプローチ」により50年後の森林を「守り、育て、利用する」持続的プロセスの姿(ビジョン)として、「未来につなぐ想い」を示しました。

策定委員会では、委員それぞれの立場から住民目線の議論を進め、主体的に取りまとめることとしました。目標期間50年のうち、2030年はSDGsの目標年となっています。この年を一つの節目とし、今後6年間は、ビジョンを軌道に乗せる重要な時期であることから、注意深く、また精力的に議論を重ね、現地視察の際には、町民のみなさんから貴重な経験と活動への熱い思いを拝聴しました。

その成果を今ここに上梓できたことはこの上ない喜びであり、委員はもとよりオブザーバーのご支援・ご協力、そして事務局の絶大なるご尽力の賜であると心から感謝いたします。

50年後、町民のみなさんに、身近な森林がかけがいのないものとして認識され、「共同アプローチ」として持続的に森林が管理・利用され、地元産の木材が生活の隅々で使われるようになったとき、本書の理念「“みんなと共に、未来につなぐ辰野町の森”～持続性と多様性のある森林を50年後の未来へ～」は真に受容されるのでしょうか。その日が来るのを願ってやみません。

令和6年(2024年)3月



森ビジョン作成にあたって

「未来につなぐ辰野町の森ビジョン（以下：「森ビジョン」という。）」は、町民、森林・林業関係者、有識者からなる『未来につなぐ辰野町の森ビジョン策定委員会』を設置し、現地検討やワークショップを重ね、2年の歳月を掛けて作成しました（写真下）。

「森ビジョン」は、森林・林業及び森林環境を通じて「辰野町の環境を守り、町民の暮らしや町の豊かさ」に資するよう50年先を見据え、長期的な視点にたって森林を維持・活用し、次世代に引き継ぐために必要な基本方針や短期の実施方針、長期にわたって取り組まなければならない事項を取りまとめています。



写真 未来につなぐ辰野町の森ビジョン策定委員会現地検討会（左）と委員会風景（右）

現在、私たちは緑多い森林の広がりを見ることができます。森林は辰野町の風景を形成する重要な要素となっていますが、半世紀以上前は現在のような樹木で覆われている林地は多くありませんでした（写真右下：ビジョン本編p10 写真-3）。薪や木炭、農地堆肥としての刈敷などに使われ、大きな樹木は建築材として利用されるなど、農山村地域の生活になくてはならない存在でした。

しかし、1950年代から建築用木材として経済的価値が高い、針葉樹を植林する「拡大造林政策」がとられました。生活の一部であった森林が、大きく姿を変えた時期でもあります。しかも、これらの木が育つ前の1964年に木材輸入が自由化され、安価な外国産材が市場を席巻して林業という営みが衰退をたどりましました。さらに高度経済成長期（1955年～1973年）の燃料革命等により次第に燃料としての木材も利用されなくなり、身近だった森林が多くの人々から忘れ去られる事態をたどりましました。



写真 50年以上前の小横川集落

現在の森林は、このような経緯をたどって成立しています。「森ビジョン」ではこれまでの経緯を認識しつつ、あえてその経緯には触れていません。なぜならば、過去の施策も時代の要請に基づいて展開されたものです。

現在も日々情勢は変化しています。森林に限定するならば、林業という営みだけでなく、生態系の持続性や生物多様性、地球環境保全への貢献が期待されるものとなってきました。

森林といえば、一般的には樹木に注目してその樹木の集団と考えられており、広くは林地（その森林が占める土地）と林木（まとまった広さを持って群生する樹木）の総称と定義されます。しかし、森林には樹木（木本）はもとより草花（草本）等の植物や、動物、きのこ、微生物に加え土壌まで含まれており、森林とは樹木に覆われた生態系を構成するさまざまな生物や環境そのものと言えます。森林を維持することは、私たちの生活にとっての環境を守るといった極めて重要なことなのです。

さらに、森林資源を「守り、育て、利用する」循環型システムを構築できれば、様々な便益が町民のみなさんに還元され、経済的にも地域が豊かになります。

したがって「森ビジョン」は、森林を通じて「辰野町の環境を守り、町民の暮らしや町の豊かさ」に資するために、持続性と多様性のある50年後の森林の姿（将来像：ビジョン）、それらを達成する活動等を記載しています。

「森ビジョン」は、町民のみなさんを対象として作成しています。



秋の横川ダム湖



【表 記】

① 簡便な表記

広く市民のみなさんに「森ビジョン」を活用していただくために、あえて簡便な（平易な）表現を使用しています。

② 「^{しんりん}森林」の表記

一般的に樹木がある程度集団的に生育している所を「森林（しんりん）」と呼びます。森林に関する基本的な事項を定めた法律である「森林法」の森林とは、法第2条において「木竹が集団的に生育している土地及びその土地の上にある立木竹」並びに「木竹の集団的な生育に供される土地」と規定されています。古くから地元の住民は森林を「山（やま）」と呼んでいますが、「森ビジョン」は「森林」を基本表記としています（ビジョン本編 p6）。

森林は「森」と「林」との字を合せた用語です。「森」とは樹木が盛り上がっている様子、「林」は樹木が群がって生えている場所と、強いて「森」と「林」の字義（文字の意味）の違いを挙げる必要があります。この「森」の使い方の例としては鎮守の森、ふるさとの森、深い森等、「林」の例では原生林、天然林、人工林、広葉樹林、針葉樹林、雑木林、平地林等と呼ばれるものがありますが、多分に慣用的であり感覚的に使われています。

そこで「森ビジョン」では、ビジョンのタイトルは呼びやすい「森（もり）」、ビジョン内の記載表記は「森林（しんりん）」としました。

③ 年次表記

時系列を示す年次は西暦表記を基準としました。

【構 成】

「森ビジョン」は、本編『未来につなぐ辰野町の森ビジョン』と『解説編 ～「森ビジョン」策定の背景と森林情報～』としています。

📖 未来につなぐ辰野町の森ビジョン

Vision-1～Vision-13

📖 解説編 ～「森ビジョン」策定の背景と森林情報～

第1章～第6章・用語集・希少野生植物リスト

解説編は、本編の具体的内容や技術的内容を解説して取りまとめています。本編中に「解説編 p〇〇～〇〇」または「解説編 p〇〇」として参照のページを示しています。

本編と解説編には、聞きなれない言葉や多用されている英略語等の用語は（※n-n）を用いて文末末尾に記載しています。さらに、参考としていただきたい事項や理解していただきたい事項など、“コラム・トピックス”として取りまとめています。

森林・林業の用語は一般的ではありません。そのため『用語集』を巻末に登載しました。さらに、生物多様性の視点から『辰野町の希少野生植物リスト』を掲載しました。

本編と解説編の間には、「50年後の未来へ～策定委員の提言～」・「東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム 辰野町における課題の特定とその解決策の提案」を掲載しています。策定委員会での意見や東京大学の学生が視て考えた辰野町の森林・林業をご覧ください。

本編及び解説編の登載図面及びゾーニング図は、国土地理院の許可（国土地理院長承認（複製）R5JHf165）を得た基盤図を使用しています。



目 次

未来につなぐ辰野町の森ビジョンの策定にあたって 辰 野 町 長 武居 保男
 未来につなぐ想いを 策定委員会委員長 植木 達人
 (信州大学大学院 総合理工学研究科農学専攻 教授)

森ビジョン作成にあたって	③
森ビジョンの構成	⑤

未来につなぐ辰野町の森ビジョン

Vision- 1. 未来につなぐ辰野町の森ビジョン	 2
Vision- 2. なぜ森林が重要なのか？	 3
Vision- 3. 森林を守る活動は相乗効果がある	 4
Vision- 4. みんなと共に50年後を目指す活動（共同アプローチ）	 5
Vision- 5. ビジョンの「森」 ^{もり}	 6
Vision- 6. 山（もり） ^{やま} に行く	 8
Vision- 7. なぜ50年間なのか	 9
Vision- 8. 「森ビジョン」の位置付け	 12
Vision- 9. 「森ビジョン」の推進	 14
Vision-10. 「森ビジョン」推進のためのゾーニング	 15
Vision-11. 「森ビジョン」短期重点項目	 18
短期重点項目 ① 防災・減災の森林整備（災害に強い森林づくり）	 22
短期重点項目 ② 松くい虫対策	 24
短期重点項目 ③ 獣害対策	 26
短期重点項目 ④ 2050ゼロカーボンに向けた整備（森林CO ₂ 吸収量の増強）	 28
短期重点項目 ⑤ 森林レクリエーション・環境教育の推進	 32
短期重点項目 ⑥ 森林経営と木材利用	 33
「共同アプローチ」によるモデル森林の検討	 35
Vision-12. 長期に取り組むべき事項	 37
Vision-13. 「森ビジョン」の推進	 42
 国有林と民有林	 7
 ネイチャーポジティブ（自然再興）	 11
 「持続可能性」	 13

 辰野町で始まっている「美しく災害に強い森」づくり	23
 獣が気付くか・・・それとも人間が気付くか？	26
 特殊伐採も必要になる？	27
 木の重さの半分が炭素 ☞ だから木材を使おう！	31
 森林の経営管理に係る制度	34
 共同アフロー千の里山整備	36
 辰野町の“山＝森林”の今昔！	45

50年後の未来へ👉 ～策定委員の提言～ ...②～⑬

 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラム

辰野町における課題の特定とその解決策の提案  ...⑭～⑰

解説編 ～「森ビジョン」策定の背景と森林情報～

第1章：辰野町の魅力と現状	解説 - 1 -
第2章：辰野町の森林・林業と現状	解説 - 15 -
第3章：森林・林業を取り巻く課題の整理と打開方向	解説 - 61 -
第4章：森ビジョン理念・目標	解説 - 81 -
第5章：実施方針	解説 - 93 -
第6章：森ビジョンの推進	解説 - 117 -
用語集	用語集 ①～⑳
辰野町の希少野生植物リスト	希少野生植物リスト ①～⑧

策定委員会

策定委員会の活動記録
委員名簿

未来につなぐ辰野町の森ビジョン



Vision- 1. 未来につなぐ辰野町の森ビジョン

辰野町の森林率（森林面積 ÷ 総地域面積）は 87% を占め、市街地からは緑豊かな森林の広がりを見渡すことができます。森林は町の風景を形成する重要な要素であり、私たちの暮らしの中にとってかけがえのない財産となっています。

森林・林業及び森林環境を通じて「町民の暮らしや町の豊かさ」に資する長期的な視点にたって、森林を維持・活用し、次世代に引き継ぐため、50 年先の森林の将来像を示す「未来につなぐ辰野町の森ビジョン（以下：「森ビジョン」という。）」を策定しました（図-1）。

“みんなと共に、未来につなぐ辰野町の森”

～ 持続性と多様性のある森林を 50 年後の未来へ ～



図-1 「未来につなぐ辰野町の森ビジョン」の目標のイメージ



Vision-2. なぜ森林が重要なのか？

辰野町の森林の多くは、町民のみなさんが使い続けてきたからこそ、維持された身近な自然です。生活の一部として森林と共に歩んできた歴史があります。

近年、暮らしの中で森林のことを考えたり、活用したりすることは、それほど多くありません。しかし、森林は私たちの生活にとってかけがえのないものです。森林が適正に管理されていると崩壊等の災害防止、二酸化炭素（以下：「CO₂」）を吸収して気候変動を緩和し、きれいな水を育み、レクリエーションや環境教育の場、木材や薪などの燃料、特産のマツタケ生産など、森林からの効用（多面的機能）を得られます。森林があるからこそ、町の環境、生活が守られているのです。

- | | |
|-------------------|---|
| 🌲 生物多様性保全機能 | ・・・生物種保全・生態系保全 ^{など} |
| 🌲 地球環境保全機能 | ・・・地球温暖化の緩和 → 二酸化炭素吸収 ^{など} |
| 🌲 土砂災害防止機能／土壌保全機能 | ・・・表層崩壊防止・土砂流出防止・土壌保全 ^{など} |
| 🌲 水源涵養（かんよう）機能 | ・・・洪水緩和・水資源貯留・水量調節・水質浄化 ^{など} |
| 🌲 保健・レクリエーション機能 | ・・・保養（リフレッシュ・散策）・レクリエーション ^{など} |
| 🌲 快適環境形成機能 | ・・・気候緩和・大気浄化・騒音防止 ^{など} |
| 🌲 文化機能 | ・・・景観（ランドスケープ）・環境教育・伝統文化 ^{など} |
| 🌲 物質生産機能 | ・・・木材・燃料材・工芸材料・山菜（マツタケ等） ^{など} |



図-2 森林からの効用（多面的機能）と私たちの暮らし



Vision - 3. 森林を守る活動は相乗効果がある

一つの活動がさまざまな利益につながっていくという「相乗便益（コベネフィット：co-benefits）」という概念が、森林管理には適合します。

森林を守ることは、生物多様性の保全につながると同時に、CO₂の吸収源を守り、地球温暖化対策にもなるという相乗効果が生まれます。森林を適正（健全）に管理すると、一つの目的ではなく「山地保全（減災・防災）」・「森の恵み（水やCO₂吸収）」・「レクリエーションや環境教育」・「林業や木材産業」などに波及します（図-3）。

森林があることで、町民みなさんの暮らしや町の豊かさにつながります。

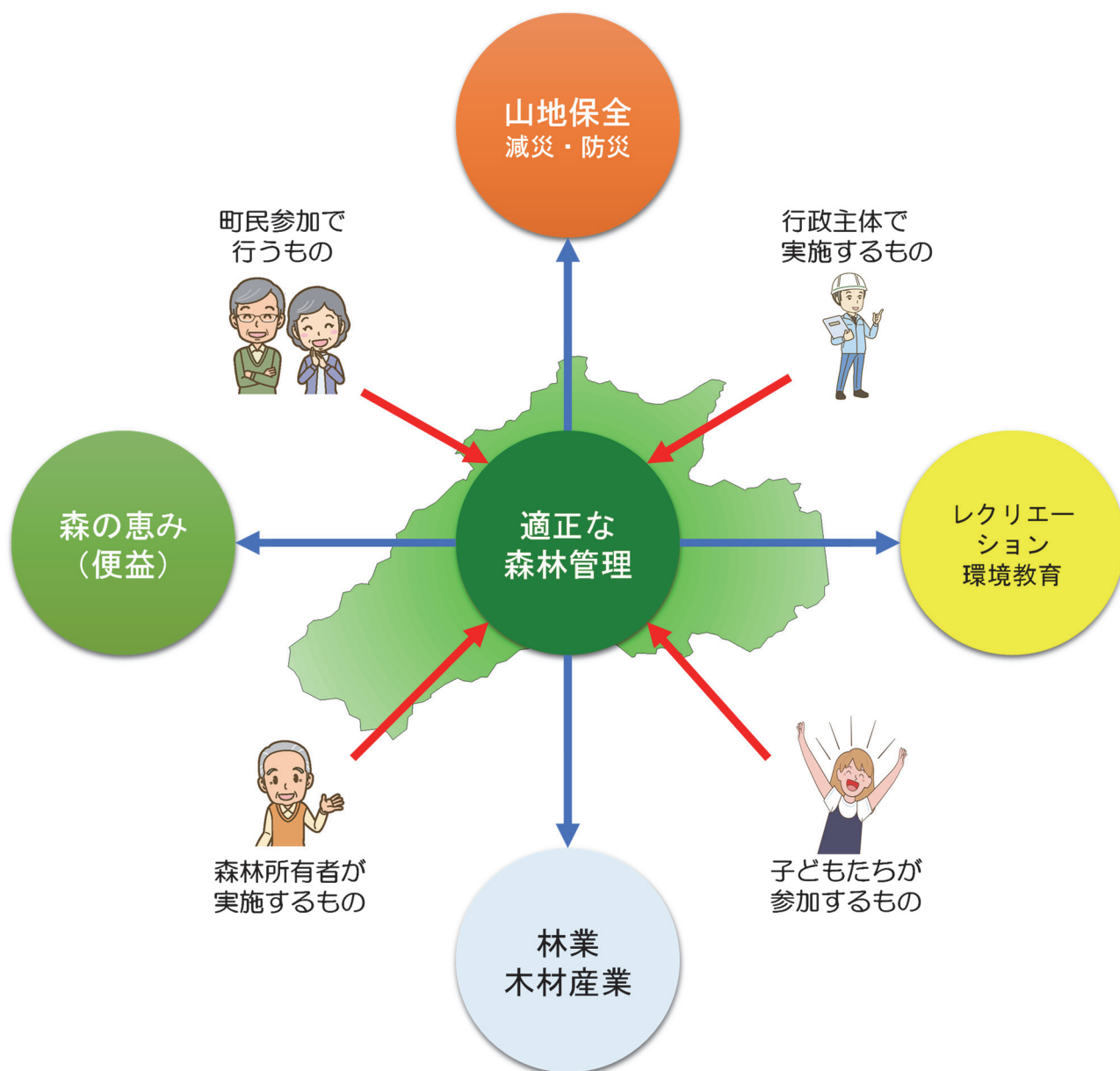


図-3 適正な森林管理の多方面へ相乗便益（コベネフィット）



Vision - 4. みんなと共に50年後を目指す活動（共同アプローチ）

高度経済成長期（1955 年～1973 年）以前は、森林の管理や経営は、森林所有者（団体・共有も含む）が主で、それぞれの所有者が森林を利用し、森林から木材などにより収益を得ていました（**個々のアプローチ**）。

しかし、エネルギーが石油、ガス、電気などへ移行、1964 年の外国産材輸入全面解禁等、時代の流れによって里山は放置され、植えられた多くの森林も忘れ去られるようになってきました。しかしながら、近年の地球温暖化防止、生物多様性、地域環境の保全等、森林への期待は国際的に高まっています。これまで「**個々のアプローチ**」でしたが、これからは、**みんなと共に森林を守る『共同のアプローチ（以下：「共同アプローチ」）』**の時代と考えます。この活動が実行されれば、森林所有者だけでなく地域が豊かになるのです。

そのためには、「**町民の参加**」、「**森林所有者の実施**」、「**行政が主体となつての実施**」、それと「**町民 & 森林所有者 & 行政**」の3者の共同が必要です（図-4）。

地域での実践の重要性 ➤ 地域の幸せをつくっていく

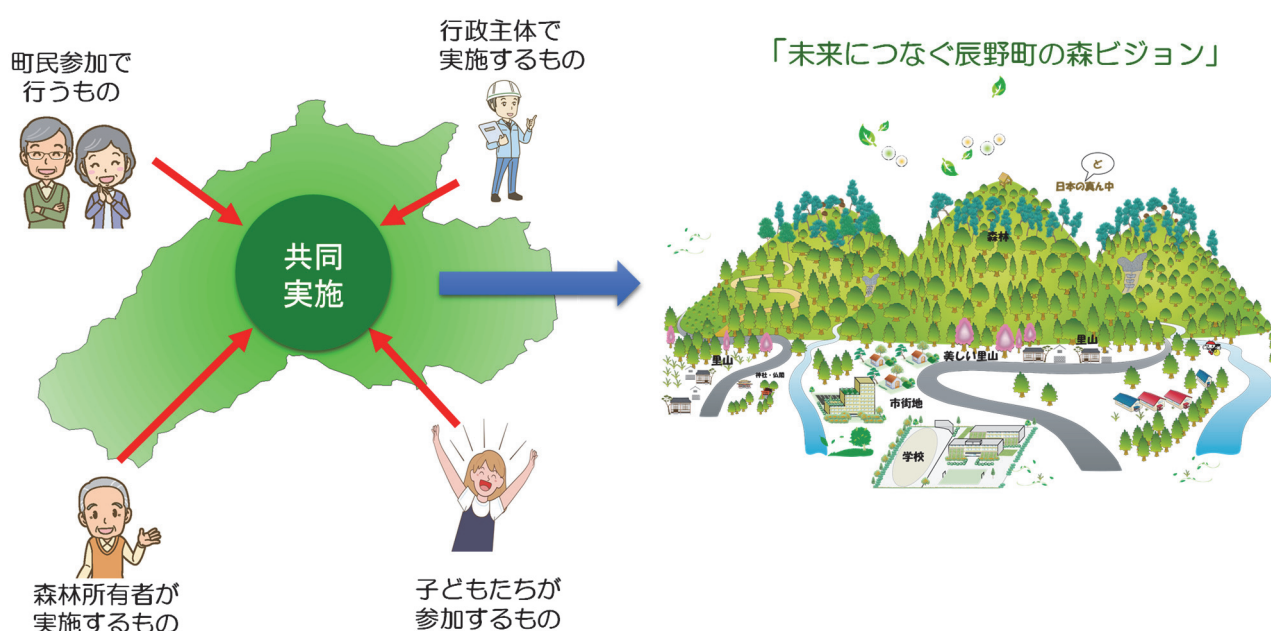


図-4 みんなと共に森林を守る「共同アプローチ」



Vision-5. ビジョンの「森」

(1) 「山^{やま}」と「森^{もり}」と「森林^{しんりん}」

辰野町で周囲を見渡せば、そこには沢山の木が生えています。小野川^{よこかわがわ}、横川^{こよこかわがわ}、小横川^{こよこかわがわ}や天竜川沿いの平らな場所から高いところまで、木が沢山あれば「山（やま）」と呼んでいます。

また、集落の後背は「裏山（うらやま）」または「里山（さとやま）」と呼びます。「里山」とは集落などの里に近く、昔から人々が生活のために利用してきた森林のことですが、近年は人々の暮らしと農地や森林が共存している地域を「里山」と呼んでいます。里山に対して、人があまり入り込まないような深い山奥を「奥山（おくやま）」や「深山（みやま）」と呼びます。さらに木を育てたり、木を切ったりする作業は「やま仕事」と呼んでいます。

私たちは、日常的に「森（もり）」や「森林（しんりん）」よりも「山（やま）」を多く使っていますが、「森ビジョン」の「森」は、日常的に使用してきた「山（やま）」を意味し、そこに生えている木々等を対象として「森林」として表記します（図-5）。

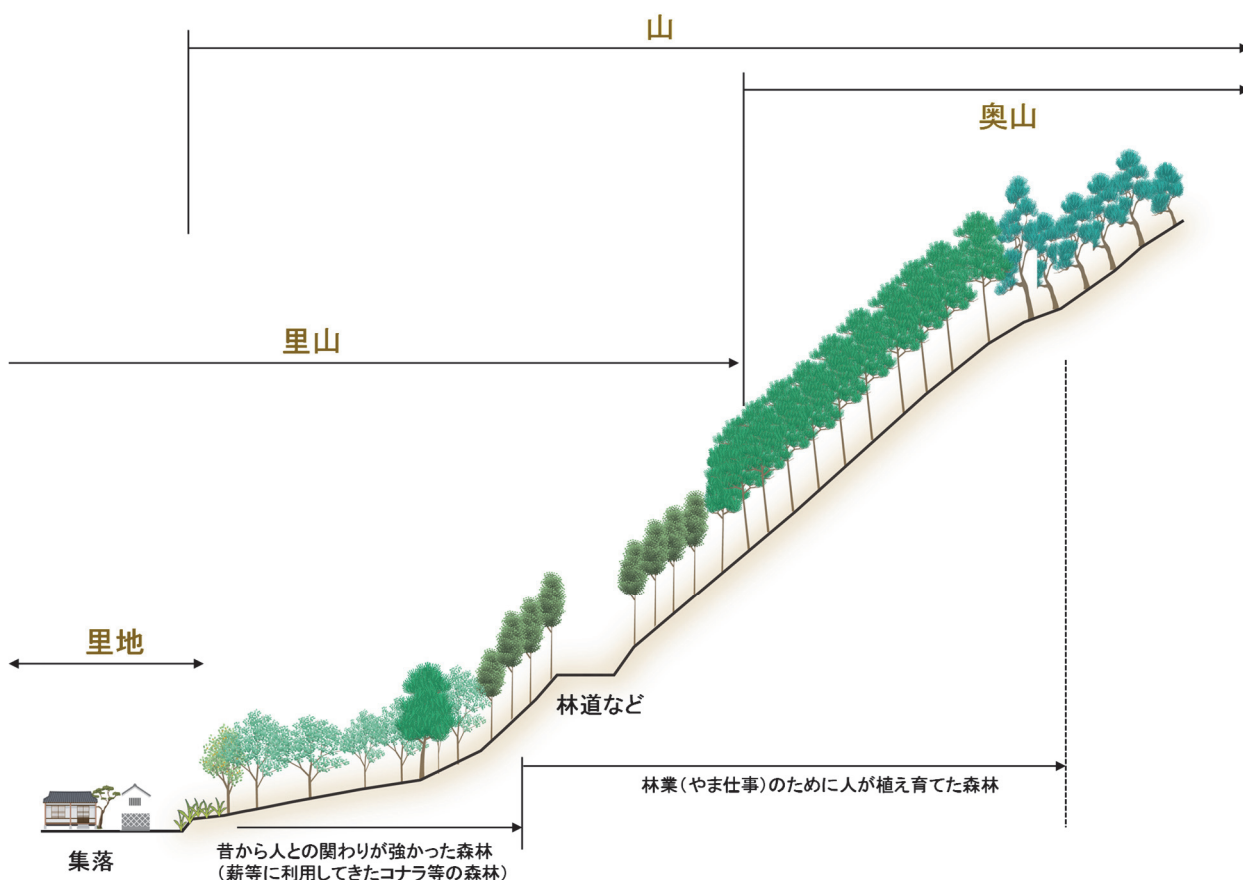


図-5 「山」と「森林」のイメージ



(2) 対象森林

「森ビジョン」の対象森林は、国有林を除く2023年4月現在の森林法第5条の民有林10,850haです（図-6）。



図-6 「森ビジョン」の対象森林



国有林と民有林

「国有林」とは、国が所有する森林・原野のことで、日本の森林面積の約3割が「国有林」となっています。

「民有林」とは、国有林以外の森林で、森林法第5条に示されている都道府県知事が5年を1期としてたてる地域森林計画の対象となる森林のことです。民有林には個人等が所有する私有林の他、県や町が所有する公有林も含まれます。地域森林計画対象民有林において、立木の伐採や開発行為を行う場合は、県知事の許可や町長への届出等が必要です。



Vision-6. ^{やま}山（もり）に行く

普段、山（もり）に行く機会がない町民のみなさんも、登山（ハイキング）やキャンプを体験して山（もり）へ行ってみませんか。

登山のイメージは、大変そうとか色々あると思いますが、身近な大城山^{おおじょうやま}や少し足を延ばして楡沢山^{さわやま}や桑沢山^{くわざわやま}（写真-1）、穴倉山^{あなぐらやま}に登ると、緑の美しさや、鳥の声、一杯のお水を飲んだ時の美味しさ、日常で感じることのない気持ちよさを感じることが出来ます。役場には「辰野町山歩きガイド」があります。活用してください。

町には有名なしだれ栗森林公園キャンプ場（写真-2）、蛇石^{じゃいし}キャンプ場、大城山展望台での Day ソロキャンプなど、身近なキャンプ場を利用してキャンプを楽しみ、山（もり）を感じてみませんか。仕事や家事で疲れている方、気分転換を求めている方、たまには自然に癒されてみませんか。



写真-1 桑沢山縦走ルートの六夜様



写真-2 しだれ栗森林公園キャンプ場
(辰野町産業振興課ホームページ)

山（もり）に行くことが、みんなで森林を守る「共同アプローチ」の第一歩になります。山（もり）を身近に感じて、みんなで次の活動をしましょう👉

山（もり）に足を運ぶ	☺ 登山・ハイキング・キャンプ ^{など}
山（もり）を楽しむ	
山（もり）を知る	☺ どんな木や山菜があるの？・・・恵みを知る
山（もり）の恵みを使う*	☺ 山菜・キノコ・薪 ^{など}
山（もり）の活動に参加する	☺ 植林・育林・薪づくり
山（もり）の知恵を学び活かす	☺ 水を守る、災害を防ぐ、CO ₂ を吸収する ^{など}
山（もり）と共に生きる	☺ 地域の幸せをつくる

※ 山菜・キノコ・薪等は、森林所有者やキノコ採り権を持っている皆さんの権利が優先されます。止め山等への入林はできません。
「森の恵を使う」行動は、ルールを守ってください。



Vision-7. なぜ50年間なのか

「森ビジョン」の計画期間は、**2024年～2074年の50年間**とし、**短期目標年は2030年**とします（図-7）。

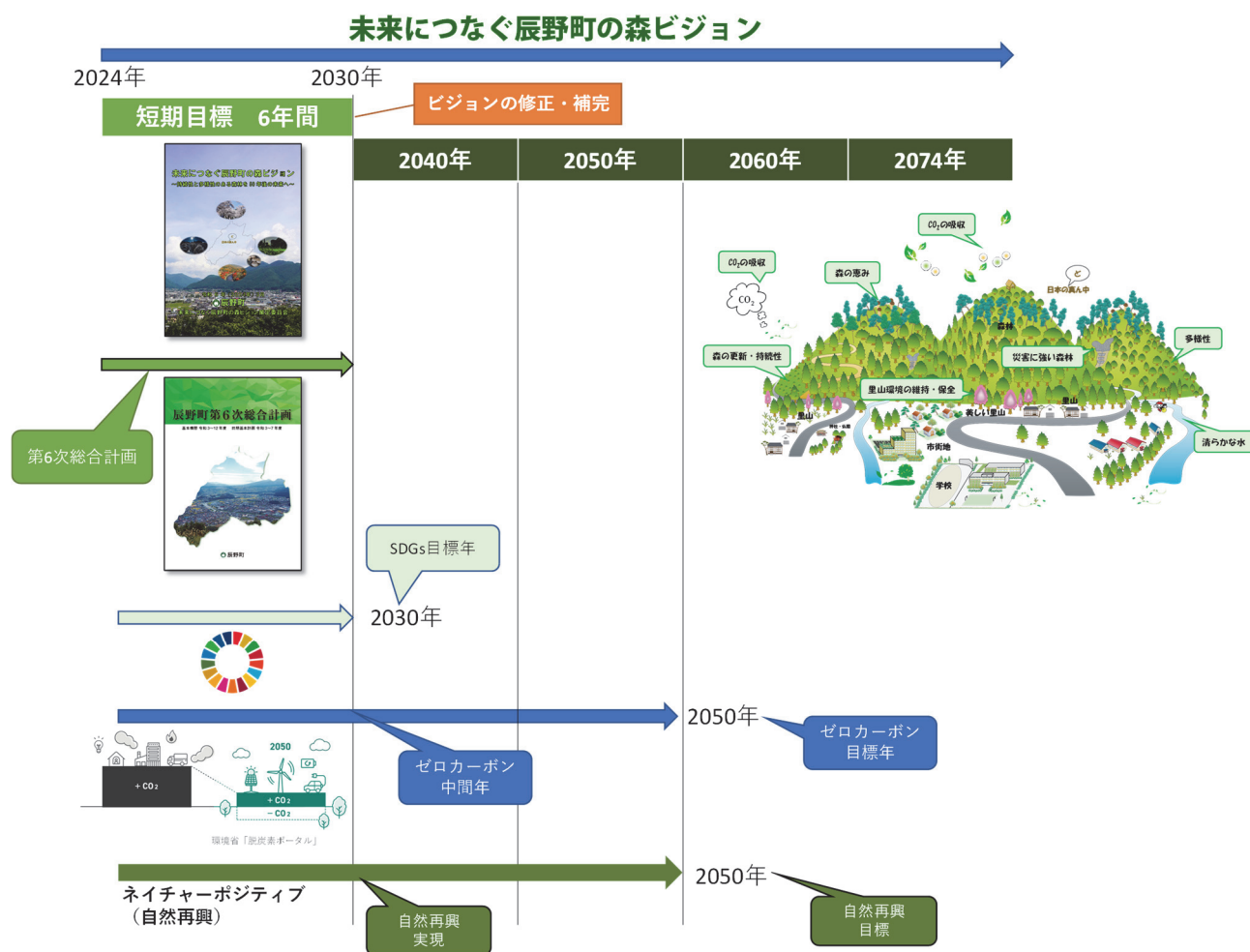


図-7 「森ビジョン」の時間軸

50年を目標とする理由は、次によります。

（1）現在の若年層が一代で確認できる時間軸で、町の森林の見通しを確認可能な時間軸として、実行可能な展望を示すため

全国には20～30年の中長期的なビジョンや「100年の森」といった時間軸でビジョンを設定している場合があります。長野県の「長野県森林づくり指針」も100年先の森林の姿を想定しています。100年先を見据えることは極めて重要です。

しかし、持続的に森林を維持し後世に引き継ぐためには、100年先ではなく、1代（生産年齢である15歳～65歳＝50年）で辰野町の将来像を見据える必要があります。町民のみなさんの記憶が重要です。50年を時間軸とすることで50年前の姿を語り次ぐことができます（写真-3）。

そこで、**50年という時間軸を設定しました。**





写真-3 約50年前の小横川集落と森林

今後、ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）が一段と進み、50年の時間軸であれば、人々の記憶とともに、50年前を振り返ることが可能です。

（2）50年の中間年（25年後）は2049年となり、2050ゼロカーボンの目標年である2050年と近似する

地球温暖化対策として「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」は、私たちにとって重要な環境施策です（図-8）。地球温暖化の要因とされる温室効果ガスに対し、森林は重要なCO₂吸収源です（図-9）。脱炭素を実現するための環境活動である「植林」も具体的行動とされています。

ビジョンを推進するうえで「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」の目標年と中間年が近似することは、「森ビジョン」が環境施策としても有効な役割を果たしていることの検証を行うことが可能となります。

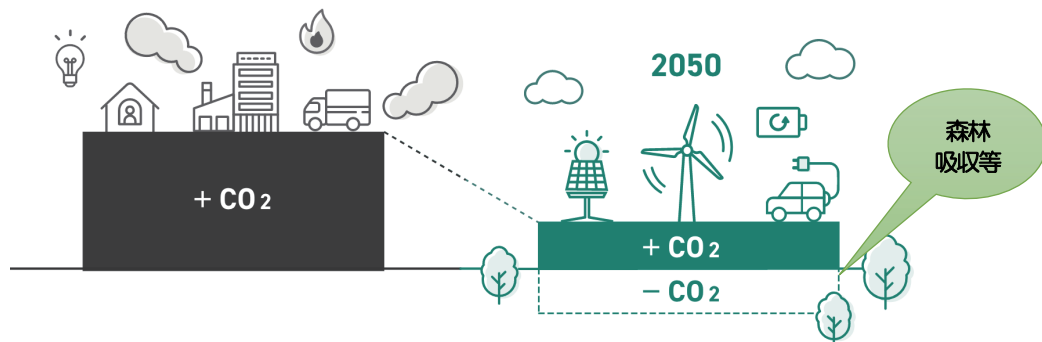
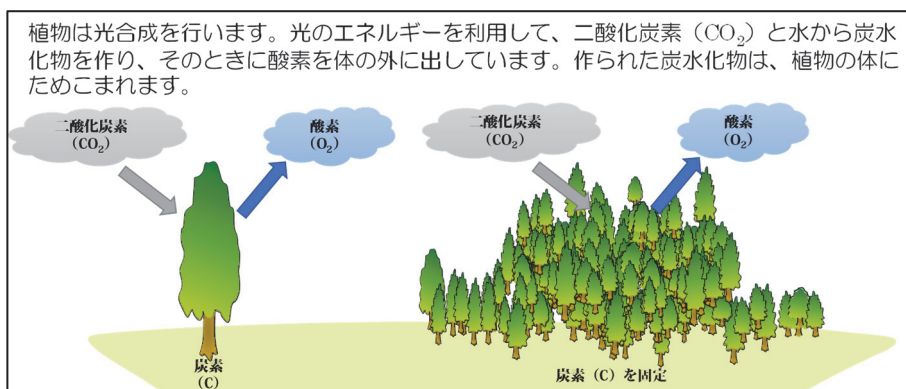


図-8 2050年カーボンニュートラルの目標

環境省https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/#to-howに加筆



図-9 森林のCO₂吸収と炭素固定のイメージ

（３）50年の中間年（25年後）は2049年となり、ネイチャーポジティブの目標年である2050年と近似する

地球上には、約3千万種ともいわれる多くの生き物がいます。多くの生き物（個性）がそれぞれのはたらき（機能）を持ち、多くのつながり（関係性）を持っています。この「生き物」「はたらき」「つながり」を様々な側面からとらえたものが「生物多様性（Biological Diversity）」です。この生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ（自然再興：Nature Positive）」も私たちにとって重要な環境施策です（「生物多様性国家戦略 2023-2030～ネイチャーポジティブ実現に向けたロードマップ～」，環境省，2023年3月31日）。この「ネイチャーポジティブ」は2030年までに実施し、2050年の達成に向けた施策となっています。

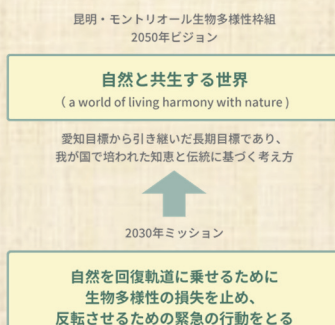
（４）短期目標年は2030年

短期目標年の2030年は「第6次総合計画（次ページ）」の最終年であること、国際目標である「SDGs」の目標年であること、「2050 ゼロカーボン」及び「ネイチャーポジティブ」の中間目標年となっています。様々な施策の重要な年である2030年を短期目標年と設定しました。

ネイチャーポジティブ（自然再興）

2030年までに「ネイチャーポジティブ（自然再興）」を実現することが、2050年の達成に向けた短期目標とされています。

「2030年ネイチャーポジティブ（自然再興）」の実現に向けて、人類存続の基盤としての健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持し回復させ、自然資本を守り活かす社会経済活動を広げるために、これまでの生物多様性保全施策に加えて気候変動や資源循環等の様々な分野の施策と連携することとされています。



ネイチャーポジティブ（自然再興）の考え方

環境省 自然環境局 自然環境計画課 生物多様性主流化室

